

研究課題名	ビデオ脳波モニタリング検査に対し発達障害合併のもたらす影響
研究責任者名	広島大学病院小児科 医科診療医 立石 裕一
研究期間	許可日 ~ 2030年 3月31日
対象者	2023年4月から2028年3月の間に、広島大学病院小児科で入院の上ビデオ脳波モニタリング検査(VEEG)と発達検査受けられた3歳以上の患者さん
意義・目的	<p>ビデオ脳波モニタリング検査(VEEG)はてんかんの診療や診断において重要な役割を占めますが、てんかんの患者さんの中には発達障害を合併している方も多く、環境の変化から十分なモニタリングができなかったり、目的とする発作が捕捉できないこともあります。また、そもそも発達障害を合併していることでVEEG自体を回避することもあります。一方、以前私たちが行った研究では、発達障害を合併した患者さんのほうがVEEGで発作捕捉率が高かったとの結果もあります。VEEGに対し、発達障害の合併がどのような影響を与えるか検討し発達障害を合併している患者さんでも問題なくVEEGを受けられるのか、どのようなことに注意すればいいのかを明らかにすることが目的です。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は年齢、性別、てんかん発作型、発作の頻度、内服している抗てんかん発作薬、ビデオ脳波モニタリング検査の実施時間、発作捕捉の有無、発達検査の結果、基礎疾患の有無と種類です。</p> <p>取得した情報は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。</p>
共同研究機関	ありません
試料・情報の管理責任者	広島大学 小児科 立石 裕一
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。</p>

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5212

広島大学病院小児科 医科診療医 立石 裕一